

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	伊川谷音楽堂児童デイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2025年 1月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 22日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイとしての集団的な療育活動を基本としつつも、クライアント個々の特性に応じた個別対応を行える体制が取れている。	集団での活動、個々での活動それぞれの場面をメリハリをつけて行っています。画一的にならないように、一人一人の成長に合わせたスモールステップを意識しつつ、また、家庭・学校との連携にも取り組んでいます。	職員のより専門的な知識、技術の向上を目指し、各研修や講習を通じて研鑽に努めます。
2	音楽セッションを活かした活動を中心に、クライアントの心身の充実を図る活動を実施している。	児童みんなで演奏したい曲を考え、どのような楽器、編成でどう仕上げるか…そういった一連の流れから全員で考え取り組む「総合芸術」的な視点を持って専門職員が支援に携わっています。	無理の無い範囲で、完成した楽曲等を外へ向けて発信できるような方法や場所の開発を行い、クライアント(演奏する児童達本人)の自己実現とオーディエンスとの関係性を持って、地域により豊かな文化的充実を実現し社会貢献の一端を担えるように努めます。
3	5領域活動プログラムを常に意識し、些細な日常生活動作からも生きて行く為のスキルの強化へと繋げられるように療育活動を専門職を中心に行っている。	事業所内外での活動一つ一つに個々の目標を設定し、社会活動の実践の中でソーシャルスキルを磨ける様に意識しつつ専門職員が支援に携わっています。	活動そのものの決定を児童同士の会議の中から創出し、実践できる事で、「自己決定」の意識がより充実する様に、専門職員が助言や指導を行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	車いすの利用等含め、肢体不自由な方への充実したサービスの提供の難しさ。	室内設計がバリアフリーでない部分(玄関部分)があり、スムーズに移動し辛い。トイレも手すり等の設置無しの状態である。	ニーズに応じて、室内環境のリフォームを検討。
2	他音楽堂事業所と比較すると送迎スタッフが少なく、特に送迎の送迎にやや時間がかかる。	送迎運転可能なスタッフ数が充分には足りていない。保有する送迎車数も他音楽堂事業所と比較すると少ない。	送迎スタッフの新規補充と送迎車の増台。
3	音楽の専門職員の少なさ。	音楽専門職スタッフ不在時は、充実した音楽セッションの実施が不十分である。	音楽専門職員の増員と、専門外職員のスキルの向上。

事業所名	伊川谷音楽堂児童デイサービス
------	----------------

公表日 2025年1月28日

利用児童数 2025/1/22 20名

回収数 18

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	2		3	部屋を状況に応じて仕切れるのは良い。	可動式の間仕切りやパーティションの活用で個人個人の空間を必要に応じて提供します。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	3		4	何人職員がいるのかよくわからない。	契約時、モニタリング面談時等にご理解頂ける様に都度説明します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	1		5	構造化の意味がわからない。	個々の特性に応じた対応が実現できるように環境づくりをより充実させます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	10	3		5		終業後の清掃、消毒を引き続き実施します。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	3		1	子ども同士のトラブルも成長の一部として真摯に対応頂き、子ども自身も一つ成長できた。	個々の特性に応じた支援の継続が可能となる様に引き続き職員の資質の向上に努めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	2		1	音楽やクッキング、外出等色々あって楽しいと子どもが話しています。	季節感も感じられる様に今後も5領域を意識した様々なイベントを企画します。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	2		1	小さなつまづきを気にかけてくださり嬉しかったです。	個々のニーズに応じた支援計画の作成を心がけて行きます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	3		3	学校と家庭のつなぎ役としてお世話になりました。家族が助かりました。	本人支援を基本に必要なに応じて家族支援等充実させて行きます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	2		1		面談時等に支援内容の確認をより丁寧にを行います。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	5		2	色々活動ネタを考えて下さり感謝です。	5領域プログラムを意識しつつ、児童の皆さんが楽しめる支援を心がけて行きます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	2	6	特に必要と思いません。	ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	2	1	2		契約時、モニタリング面談時等にご理解頂ける様に都度説明します。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	3	3	2		契約時、モニタリング面談時等にご理解頂ける様に都度説明します。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	1	7	他施設で受けています。	ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	11	6		1	公式LINEで動画や画像を送ってもらえるので、子どもの様子、表情が良くわかります。	公式LINEでの情報共有を基本に、送迎時にもご様子を共有するように心がけて行きます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2	4	2		ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	2	1	1	急な変更等に対応頂き助かります。	ご本人、ご家族のニーズに可能な限り添えるよう尽力して行きます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	1	3	6	保護者会等は特に希望無し。PTAでも大変なので正直コミュニティを必要以上に増やしたくない。コンサートを通じて兄弟も楽しめた。	ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	2	1	2	問題発生時にすぐに子ども目線も大切に対応頂きました。	ご家庭の問題等発生時は、管理者を中心に気軽に相談して頂けるよう都度お伝えしています。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	4		1	公式LINEで動画を観るのが楽しみです。	公式LINEの活用を中心に、情報伝達がスムーズに実現できるように努めています。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	1	2	4	ホームページが古い気がします。公式LINE&紙ベースの連絡帳のハイブリッド対応は良い。	HPを年内に更新予定。情報発信をより充実させて行きます。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	2	1	2	説明を特に受けていない。契約時に確認した。	個人情報の取り扱いの説明をより丁寧に言い、理解頂ける様に努めます。	

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1	1	8	マニュアルを直接は見えない。	策定済みマニュアルの開示等、情報伝達に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	2	1	8		定期的な各種訓練の実施状況をSNS等で発信して行きます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	2	1	5		契約時、モニタリング面談時等にご理解頂ける様に都度説明します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	1		4		事故等発生時は対応マニュアルに沿い迅速な対応を心がけて行きます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	2		1		児童の皆さんそれぞれの居場所を心理、物理的にも提供できるよう努めて行きます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	2		1	楽しみにしているイベントの事を家でも話しています。	楽しみに思えるプログラムを児童の皆さんと一緒に作って行きます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	2		1	急なお迎え等対応助かっています。	可能な限り利用者様、ご家族のニーズに寄り添った支援を心がけて行きます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		伊川谷音楽堂児童デイサービス				公表日		2024年 1月 28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	2	トイレ対応が必要な児童が来所持に他音楽堂事業所よりヘルプを臨時で呼んでいる。	女性スタッフの確保。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1		必要に応じてスロープの導入。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8						
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1		オンライン等ITを活用しての対応。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		日々の面談や自己評価シートを活用している。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		随時必要に応じて会議、打ち合わせ、申し送り等で実施。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現在完全な第三者外部評価は未実施となっている為、導入の検討中。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		虐待・身体拘束防止研修、感染症予防研修等実施。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		個々と全体の状況に合わせた療育プログラムを児発管を中心にスタッフ全体で考案しHPに公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		本人主体、で個別支援計画を半年に一度の見直しを基本に実施している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8						
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	出勤が少ない職員との情報共有が弱い部分がある為、社内SNS等での共有に努めている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	3		アセスメントシート、ケース記録システム等の活用の事例をパート職員ともより意識的に共有していく必要がある。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		5領域プログラムに沿って音楽堂ならではの音楽療育的アプローチを取り入れつつ、本人支援、地域連携等実現に向けて活動できている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		情報共有システムとしてクラウドの導入等ITを活用している。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8						
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		個々の特性を踏まえ、スムーズな社会生活の実現の為、個別・集団活動をバランスよく組み合わせている。				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		LINEグループを活用し、リアルタイムに情報共有をしている。				

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	フレックスタイム出勤の職員との面と向かっての日々の振り返りは出来ていないが、公式LINEで特に重要な項目は情報共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		ケース記録の確実な入力で実現している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		個別支援計画作成のタイミングで定期的にモニタリングを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		特に音楽演奏・発表を軸に自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会を実現している。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	8		買物SSTで、おやつ選択等自己決定の場面を意図的に設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	管理者と対象のクライアントとの関わりが特に深い職員がなるべく同席できるように配慮している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	4	現在医療的な保育、療育が必要な利用者はいないが、今後必要な際は各機関との連携を意識的に構築・実施を行っていく。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	不登校児の学校との連携等、必要に応じて行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	6	クライアントの保護者を通じて必要に応じて就学前の事業所との情報共有をプライバシー等に配慮しつつ実現していく。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	就労支援等移行時にはデイでの様子を書面に情報の共有を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	6		市立の社会福祉施設との連携を行った実績あり。今後定期的なスーパーバイズの機会の実現を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		8		現在未実施。利用者保護者とのニーズのすり合わせもを行い、適切に対応を検討中。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		8		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		普段の会話や公式LINEでのやり取り等、お互いに気になった事を気軽に親身に話せる関係性の構築を意識している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8		ニーズに沿って情報提供等を実現していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時、モニタリング面談時等に確認している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		インテーク、アセスメントの段階より本人とその家族主体のニーズに沿って、提供出来るサービスの提案を心がけている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		定期的に個別支援計画の見直し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		必要に応じて児発管が対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		ニーズがあれば機会の創設を検討して行く。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		現場、管理者、法人理事長へとスムーズな連絡体制を取れている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		HP、SNSで法人全体の活動を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		タブレットを使用しての会話補助等の実施。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	大型音楽発表イベント等、近隣住民の無料参加を実現している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	マニュアルの存在について、パート職員、家族への周知徹底を行う。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		2024年1月時点では対応する利用者該当なし。（過去に対応実績あり。）	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6		BCP等、策定見直しのタイミングで各利用者、職員に情報の共有を強化していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			